

いきいき男女共同参画

男女共同参画と地域社会

「あなたと私の共同参画講座」第4回は、長野県短期大学准教授の築山秀夫さんを講師に迎え講演を聴き、グループワークを行いました。講演要旨は次のとおりです。

地域社会の現状

日本は明治以降、中央集権的な国家体制がずっとつくりられて来た。戦後、地方自治法ができたが、地方は中央に依存するような形で展開してきた。しかし平成5年の決議で地方分権へ大きく舵を切った。地方分権は何のためにあるのか。それは国民が待望する「ゆとりと豊かさ」が実感できる社会をつくりあげるため。成長優先から生活重視の政策へ転換が行われつつある。



講演する築山さん

しかし、今はその目的を失って、地方分権という形で国家を維持して地方が衰退するという状況になろうとしている。

今、世界で、地域の自治について大きな指針が出ている。それはサブシディアリティの原理。日本という補完性の原理といわれている。基本的な事は小さな自治体でやるということ。その市町村でできなかったら広域の市町村で、広域の市町村ができなかったら県が、県でできなかったら広域の県で、それでもできなかったら国がやる、というやり方。地域の独自性、自立を我々は獲得しなければいけない。それがまさに地域社会の生きるすべである。と世界全体で考えられている。

地域社会での共同参画

男女共同参画社会基本法ができた。まずは、政治的な意思決定に関する男女共同参画。地方議会は、都市部で高く郡部で低い傾向が出ているが、むしろ地域のコミニティレベルでの意思決定の方が我々に近い。しかしそこがかなり問題だと考えられる。全国に29万組織、長野県は平成17年で4175の自治組織が存在しているが、女性のエンパワメントが重要な課題となっている。

長野県は、第2次男女共同参画計画を策定し、重点プロジェクトの2番目に「地域組織の意思決定への女性の参画」がある。目標は平成32年までに自治会長、公民館長、PTA会長、中央協議会議員に占める女性の割合が30%を上回ることを目標にしている。現状は、去年10月のデータで、女性区長は長野県全体で34人しかいない。これを30%にする



熱心に講演を聴く受講生

という約千人で、そうなればすごい事で、地域が変わり日本の協働性が大きく変わるだろうと思う。

共同参画を可能にするには

なぜ女性が区長に参画できないのか。長野市の調査で見ると、「意欲のある女性が少ない」「地域の慣習」は

なから女性になる事を考えていない。「地域をまとめていく力がない」ここが重要だが、地域をまとめていく経験が無い。「体力的に」は、女性の若い人と男性の高齢者では女性の若い人の方が体力がある。「会議時間が遅い」これは家族の協力の問題で、家庭内の性別役割分

業が地域社会の性別役割分業に連結しているのだと思う。「女性は他にやる事が多い」「多用で家族の理解・協力が得られない」とあるが、女性が出かけるには家の事を全部やっつけていかなければ出られないという現状が見える。

「職務が多すぎる」「区長としての業務が多い」まさにその通りで、昭和50年ごろから国の縦割りの中で出てくる様々な業務が市町村まで下りてきて、その受け皿として町会ごとに下ろし、どんどん業務量が多くなっている。

保育サービス講習会修了

女性はいなくて「共同参画だから明日から区長やってください」と言われてもできるわけがない。区長、公民館長、PTA会長等、すべて男性で「女性だってできる、やらないだけなんだ」というように言っているが、実は今の状態ではできない。そのためには組織の変容をしなければならぬ。

【修了生の声】

・本来なら地域の中で実践して学んでいく「地域行政って何だろう」「区長って」「行政との関係は」ということを、セミナーを開ききっかけづくりをしていかないと無理だろう。誰もが地域社会に理解を深めた上で参画することが必要。むしろ女性が参画できるのであれば、男性でも、若い人でも、よ

ろいろな話ができ、行政のサービス等たくさんさんの情報が得られ、行政が身近に感じられた。・今回勉強したこと地域のために役に立っていた。



福祉住環境コーディネーター2級講座修了

7月から始まった福祉住環境コーディネーター2級講座が11月15日に閉講し、受講生9名は、長野市で行われた試験に臨みました。今回学ばれたことを、自立高齢者への住宅改修や福祉用具の情報提供、商店街での車いすトイレマップ作成、災害時の避難を想定した地区の話し合いなど…。医療・福祉・建築を広く勉

強してききましたので、橋渡し役として、様々な提案が期待できます。「住まい手目線」の専門職として、活動の場が広がればと思います。



集落、地域等の本場に小さい所、身近な所が最も重要だという事が世界的にわかってきた。その中の意思決定に女性が参画していくと、世界が変わっていくと思うのでそこを動かしていく必要がある。

未来館フェスタ 2008 参加者募集！

「応援します！働くあなたのヘルシー・ライフ」をテーマに「未来館フェスタ2008」が「女性と仕事の未来館（東京都港区）」で開催されます。

様々なストレスをかかえながら働く女性たちが、いつまでも健康で生き生きとした毎日を過ごすにはどうしたらよいでしょうか。そんなヒントを素敵なゲストから学んでみませんか。

◆日時 1月26日（土）午前6時30分出発（マイクロバス）午後10時頃帰着予定

◆場所 女性と仕事の未来館（東京都港区）

◆研修内容 トークイベント
『ヘルシー＆ハッピーに働こう！』

□第1部 対談

ゲスト 岸本葉子（エッセイスト）

旅にまつわるエッセイで活躍するいっぽうで、半径5m以内の日常生活を楽しく、ときに鋭くつづった身近エッセイでも人気を得る。

聞き手 渥美雅子（女性と仕事の未来館長）弁護士・講談師

□第2部 トーク&Q&A

①からだの健康～ヘルシーに働くために

講師 対馬ルリ子（ウィミズ・ウィルネス銀座クリニック院長）女性の心と体、社会とのかかわりを総合的に捉え、健康を助ける医療（女性外来）をすすめる会「女性医療ネットワーク」を設立し、活動。

②こころの健康～ハッピーに働くために

講師 山本晴義（横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長）医学博士、認定産業医、公認スポーツドクター

◆定員 30人（参加費無料。どなたでも参加できます。ご参加お待ちしております。）



申込・問い合わせ
いいやま女性センター未来（電話62-0543）

人権政策課男女共同参画係
電話：0269-62-3111
FAX：0269-62-5990
（内線 371）

E-mail：
jinken@city.iiyama.nagano.jp

いいやま女性センター未来
飯山市大字飯山 1431
電話・FAX：0269-62-0543

E-mail：
center-mirai@city.iiyama.nagano.jp